

第2回 ごみゼロカフェ 開催報告

いらない“モノ”が “アート作品”に変身！？

循環型社会、廃棄物のリサイクル等をテーマに、循環型社会づくりに向けてコンサルティングを行っている株式会社モノファクトリーの河西さんをお招きし、いらなくなってしまった“モノ”は、廃棄するだけではなく、再利用や使い続けることが大事であることをお話しいただきました。

私たちの生活になくてはならないプラスチック。
リサイクルの意識も高まって分別して廃棄することがごく自然な流れになってきていますが、廃棄されたプラスチックの行方や量の多さなど、私たちが普段目にしない裏側で、どういった問題や課題があるのかをお話しいただきました。
後半には、グループワークやワークショップを実施し、廃棄物から回収した素材を用いて、“動物”や“クリスマス”をテーマに、世界に一つだけのかわいいアート作品を参加者のみなさんで作っていただきました。



＜講師＞
株式会社 モノファクトリー
河西桃子さん
循環ビジネスグループ
コンサルティングマネージャー

第2回 ごみゼロカフェ 開催概要

- 【日 時】 12月11日(土) 14:00～16:00
- 【会 場】 川崎市生涯学習プラザ 3階 301会議室
- 【参加者】 13名
- 【内 容】 使い終わった“モノ”をただ捨てるだけではなく、使い続けて循環させることの大切さを学ぶ講演と、不要なCDやクリップ、ケーブル等を使って、動物やクリスマス等をテーマに自由に表現したワークショップを実施。

モノの終わりとは？

プラスチックを見ない日はない、と言っても過言ではないくらい、私たちの日々の暮らしに身近な存在のプラスチック。リサイクルの取組も進んでいますが、廃棄されたプラスチックのゆくえはどうなっているのでしょうか？なんと回収されたプラスチックの多くは、海を越えて中国等の海外で分別やリサイクルされています。「プラスチックとひとえにいても様々な種類があり、リサイクルするにも素材ごとに分けることが必要です」と講師の河西さんは話していました。



回収されたプラスチックの山



河西さんのグループ会社である株式会社ナカダイでは、様々な産業廃棄物が持ち込まれ、製品を一つひとつ手作業で分解・分別しているそうです。分別された素材は、原料等にリサイクルされます。分別された素材は、店舗の装飾等これまでと違った使い方で生まれ変わるモノもあります。それでもリサイクルできないモノは、最終処分場に運ばれ、埋め立てられます。私たちが捨てるごみの先には、様々な人が深く関わっており、普段からごみの削減やできるだけ分別して処理すること、またごみ処理の負担軽減について考えることが大事であると教えてくれました。

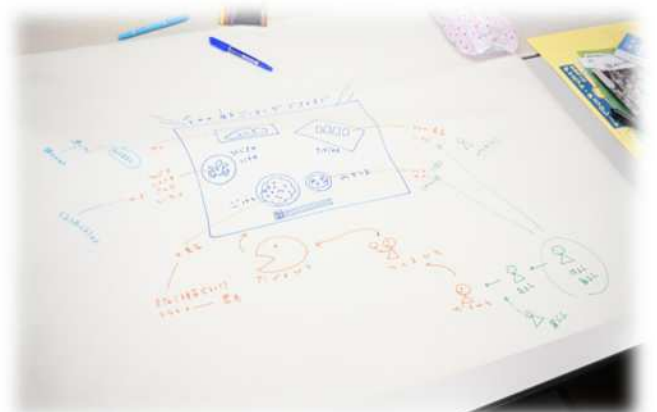
“今日の朝ごはんができるまで” を考えてみる

食品や日用品、お店に行けばありとあらゆる品物があふれています。

私たちは商品を購入して消費し、廃棄する。消費者でもある私たちが特段意識することない場面ですが、一つひとつのモノが作られるまでの過程や、モノが廃棄された後の過程はあまり考えたことはありませんよね。

グループワークでは、各グループに1枚模造紙を渡し、「今日の朝ごはんができるまで」をテーマに、焼き鮭、煮物、みそ汁、卵焼き、白飯が映った写真を参考に、食材の調達経路や調達者、生産者、運搬、それにかかわる周囲の環境など、これらのものがどのように作られ、私達のもとに届くのかを参加者同士で考え、書き出し、絵や文字などで思いつくまま自由に表現しました。

また、他のグループのシートを見て回って、意見交換をし、自身で思いつかなかった視点に思わず「なるほど～」と声が飛び交っていました。



書き出してみると、様々な人が関わっていることが見えてくる

“不用品”がアート作品に！

続いて、不用品からアート作品を作るワークショップを実施しました。不用品として持ち込まれた物を分解・分別して作られた様々な素材(マテリアル)が、約30種類ほどテーブル上に並べられ、各素材には、素材名・元々使われていた用途の説明・回収元が紹介されていました。

丁寧に分別された素材は、とてもごみとは思えないものばかりで、参加者は興味深そうに素材を手にとって、どんな作品を作ろうか吟味していました。



配線、ナット、LANケーブル…など、
多種多様な素材(マテリアル)たち



工作のベースとなる直径30cmの丸い木の板も実は廃棄物として持ち込まれたもの。この木の板を台にして、「動物」と「クリスマス」と2つのテーマで、各自アート作品を作りました。色も形も様々な素材たち。参加者は、一つひとつの素材を立てたり、重ねたりして、自分だけの世界を表現していました。参加者は、素材をたくさん使って、作品作りに終始没頭していました。



時間を忘れて作品作りに没頭！



同じ作品は一つとなく、小さな世界が完成！

作った作品と一緒に、“はいポーズ！” 捨てるはずだったごみが、世界に一つだけのアート作品に生まれ変わり、撮影した写真は思い出になりました。

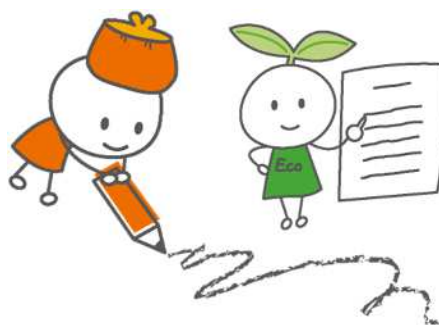
今回のワークショップを通して、身の回りにあるモノ達の形や製品になるまでの背景とその先の行方を考えるきっかけを教えてください、リサイクルするだけではなく、新しい使い方を創造し、モノとの付き合い方を再発見してほしい、と河西さんはおっしゃっていました。

ゴミ箱の先のことを考えて、工作を通して視点を広げることが出来ました。(40代)

ごみを減らすことについて意識するきっかけになりました。また廃材を使って作る工作もとても楽しかったです。他の方の作品も素敵でした。(40代)

ごみが動物やツリーになるなんてすごいと思った。(10代)

第2回ごみゼロカフェ 参加者の声



ごみの行方を全く知らなかったのですが、今回教えてもらって興味を持った。いらなくなったものをリサイクルして、工作するのはとても楽しかったです。(10代)

廃材以外でも、捨ててしまうものを再利用できるアイテムを使ったワークショップで子どもから大人まで楽しく参加できた(60代)

捨てられたごみが、動物やクリスマスの作品に生まれ変わるなんて思ってもみなかったので、びっくりしました。(10代)

私たちが出したごみをさらに手作業で分別している写真が印象だった。プラごみをなるべく出さないように心掛けたいと思います。(40代)

廃材を使って作品をつくるのが楽しかったし、現在のごみの現状を知れて気をつけなければと思った。(40代)

「ごみゼロカフェサポーター」になりませんか？

- 「ごみゼロカフェ」は、様々な市民が施設見学や講師からのお話を通して、ごみの減量化・資源化について考えるイベントです。年3回開催します。カフェのようにつろぎながら意見交換し、ごみ減量のアイデアを出していきます。
- ごみゼロカフェで、ワークショップの進行や受付など運営のお手伝いをする「ごみゼロカフェサポーター」になりませんか？
- サポーターの詳細案内や登録はホームページからお願いします。



川崎市ごみゼロカフェ

検索

<お問い合わせ>

川崎市環境局生活環境部減量推進課

E-mail : 30genryo@city.kawasaki.jp TEL : 044-200-2580 FAX : 044-200-3923